

テキサス大学ラテン・アメリカ研究所

くに ちと い よ
国 本 伊 代

はじめに

- I ラテン・アメリカ研究所の活動
- II LA関係講座と内容
- III 入学と学位
- IV ラテン・アメリカ研究図書館
- V アメリカの大学におけるLA研究

はじめに

私は1969年フルブライト留学生としてアメリカの大学に留学する機会を得たとき、テキサス大学を選び、1974年秋までの5年間、同大学の大学院に在籍してラテン・アメリカ史を専攻してきた。この経験をもとにして、テキサス大学におけるラテン・アメリカ研究の事情を詳しく紹介しようと思う。

普通テキサス大学と呼ばれるものは正式には The University of Texas at Austin (以下、UTと略す) をさし、テキサス州内の主要都市に分散してキャンパスを持っている The University of Texas System の本校ともいうべきもので、州府オースチン (Austin, 人口25万強——1974現在) にあり、約4万前後の学生が通常在籍している。アメリカの大学一般からすると、UTは州立大学の中でも大規模な大学の一つに数えられ、学生数、キャンパスの規模、雰囲気、図書館の設備などはこれら大きな州立大学ならだいたい似たようなものといえよう。とりたててUTの特徴をあげるなら、石油工学をはじめとする理工科系が充実しており、文科系で知られている有力な学科は、言語学、ラテン・アメリカ研究 (以下、LA研究と略す) など数少ない分野に限られている。このほか、全米屈指の金持大学であることは、何かとUTの発展に有利であった。事実、大学自体が州政府から出る歳入のほかに、油田や土地を所有し、潤沢な財源を持っており、別名 University of Construction と陰口されるほど、400 エーカーのキャンパスには次々

と新しい建物が建設されている。

I ラテン・アメリカ研究所の活動

UTにおけるラテン・アメリカ研究の中心はラテン・アメリカ研究所 (Institute of Latin American Studies, 以下、ILAS と略す) と称する独立した研究所である。ILAS は1941年に新設され、1897年より分散的に存在していたLA関係の講座を統合した。しかし、LA研究が急激に拡大し充実するのは、他の大学のLA研究と同様に1960年代に入ってからである。

1969年秋、私が入学した当時、ILAS はキャンパスはずれの3階建ての古い独立家屋を使っており、いかにも貧弱な感じがしたのであるが、1971年L. B. J. 大統領図書館が完成すると関連して建設された新しい建物 (Sid. W. Richardson Hall) に移り、同じビル内にLA研究図書館 (Latin American Collection) をも移転收容し、LA研究センターとしてきわめて統合的かつ近代的な環境に一躍変貌したのである。現在ILAS所長には Dr. William Glade (LA経済)、副所長に Dr. Karl Schmitt (LA政治学) を擁し、多彩な活動をしている。

ILAS は研究機関であるとともに、他の学部 (Departments) と同じく学部レベル (undergraduate) および大学院レベル (Graduate) の専属の学生を容し、独自のプログラムを組んでおり、LA研究の学位——B.A. (学士)、M.A. (修士)、Ph. D. (博士)——を出している。ILAS 自体が開設する講座は数少ないが、他の学部と密接に関連しており、各専門学部のLA関係講座を選択して単位にすることができ、また他の学部の学生がminor (専攻外) 用にILAS のコースを選択することもできる。ILAS に所属する学生数は、だいたい学部レベルの学生と大学院修士課程の学生数がほぼ同数で、学期により多少変動するが、各々100人前後の学生が在籍している。ちなみ

に100人前後の学生が修士課程に在籍するLA研究センターは全米でもケタはずれに大きく、他の主なセンターでも30~50名にすぎない。LA研究でB. A., M. A.をとった大多数の学生は実社会に出ていくが、UTの場合ILASの中に就職専門の係があって、大学全体の就職の窓口とは別に就職の世話をしている。求人関係は国際機関、政府機関、LA諸国に進出している民間企業から数多くあり、非常に恵まれているようである。

ILASは、先に述べたようにB. A., M. A., Ph. D.の学位を出すプログラムがあるが、その中心は修士課程であり、後で見ると将来教職(大学レベル)および研究職につく場合は、他の専門学部にも属して、ラテン・アメリカの経済(経済学部)とか歴史(歴史学部)などに専門化することが要請されるため、ILASのPh. D.コースに進む学生はきわめて限られている。

ILASの活動は多彩である。研究およびその成果発表としての出版活動、教育機関であるほかに、LA諸国と学問レベルでの交流やLA諸国からの留学生受け入れ機関にもなっている。またLA地域に進出している企業関係の顧問も引き受けている。出版活動の中で第1にあげられるものは、Latin American Monograph Seriesで、UT Pressを通じて出版されている。このほかLA専門のGuides and Bibliographies Series, Hackett Memorial Lecture Series, Escuela Política: Mexico Seriesなどがある。UT Pressは年間平均約50冊の研究書を出版しているが、その3分の1強はLA関係で占められており、UTにおけるLA研究の比重を物語っている。その他、出版活動ではないが、Hispanic American Historical ReviewとLatin American Research Reviewの編集を担当しており(1974年現在)、またLA関係の各種研究会や特別講演会を積極的に誘致し、主催している。ILAS所属の学生のための特別プログラムとしてはメキシコ、ペルー、ブラジルとUT・ILASの間に学生交換プログラムがあるほか、論文のためのリサーチ・プログラムがあり、Ph. D. Candidates(論文提出を残すだけの段階に達した博士課程の学生)は、いろいろな種類の研究費援助の中から何らかの資金を得て現地調査研究ができるようになっている。

II LA関係講座と内容

UTのLA関係講座は多彩で、数も多い。第1表は、1963/64におけるアメリカの有力なLA研究センターの

LA関係講座時間数(Semester Hour)である。これによると、UTのLA関係講座時間数は全米の大学の中でも最も多いものの一つであったことがわかる。第2表は、1963/64から73年にかけてUTが開設したLA関係講座時間数であるが、これによると、UTの場合10年間にLA関係講座数は約4割強増した。他のLAセンターもUTの比率とほぼ似たような形でLA関係コースは増加したとみてよいであろう。

UTの開設しているLA関係コースは広い分野にわたっているが、その中でも有力な分野は文学関係、歴史、政治および人類学である。LA関係講座の約7割がこれらの分野に集中していることがわかる。またコースのレベルからみると、1973年秋の場合、合計210時間すなわち70のLA関係コースが開設されたが、そのうち学部レベルは23コース、したがってUTのLA関係コースの半分以上が大学院レベルのものであることがわかる。以下、講座の内容がどのようなものであるか、1973年秋の場合を見てみよう。

一番コース数の多かった文学をとってみると、①ポルトガル・ブラジルの言語と文学、②ブラジル文学入門、③ポルトガル・ブラジルの文化と文明、④ポルトガル・ブラジル文学、⑤スペイン系アメリカ文明論、⑥スペイン系アメリカ文学入門、⑦スペイン系アメリカ文学論：

第1表 アメリカの10大学における1963/64年度
LA関係講座時間数¹⁾

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
大学名	チ ユ ー レ ー ン	テ キ サ ス	コ ロ ン ビ ア	カリ フ ォ ル ニ ア ²⁾ (L. A.)	ウ イ ス コ ン シ ン	フ ロ リ ダ	ニ ュ ー ヨ ー ク	カリ フ ォ ル ニ ア (バ ー ク レ ー ン)	イン デ イ ア ナ	バン ダ ー ビ ル ト
人文学	12	18	33	19	12	3	9	15	17	12
芸術	12	6	3	3	5	—	—	—	—	—
経済	15	24	9	—	6	18	6	3	3	6
地理	—	6	6	9	9	18	—	15	3	12
政治	15	15	18	12	11	24	12	9	9	3
歴史	33	30	21	33	14	29	33	33	13	39
地域	12	3	—	3	8	2	6	—	8	—
社会学	3	6	—	3	—	18	—	—	—	—
文学	51	39	48	51	64	15	60	39	54	33
合計	153	147	138	133	129	127	126	114	107	105

(出所) ラテン・アメリカ協会編『米国における
ラテン・アメリカ研究センター：その組織と活動』
ラテン・アメリカ協会 1966年 26—27ページ。

(注) 1) 時間数は Semester Hour を示す。

2) L. A. とはロサンゼルス校をさす。

研究機関紹介

第2表 テキサス大学におけるLA関係講座

時間数：1963/64～1973

学期年	1963/64	1969秋	1970春	1970秋	1971秋	1973秋
学 科						
人 類 学	18	18	18	18	18	18
建 築	---	3	3	3	3	3
経 済	6	15*	12*	18*	12	6
教 育	24	15	12	9	12	15
地 理	---	3	---	3	---	3
政 治	6	9	6	6	6	12
史 学	15	15	18	24	18	27
シ ャ ー マ	30	33	33	33	33	42
法 律	---	3	3	---	---	---
国 語	---	---	---	3	---	6
地 図	---	6	9	6	9	6
社 会	3	3	---	---	---	---
文 学	6	6	3	3	6	12
合 計	39	57	66	51	60	60
合 計	147	186	183	177	171	210

(出所) 各学期の Pre-registration 用に配布された
“Tentative List of Latin American Studies
Content Courses” による。したがってこれらの
リストは必ずしも最終決定のものではなく、普通
はコースが追加される。1963/64は第1表より。

(注) * 芸術の中に音楽も含まれる。

モデルニズム, ⑧スペイン系アメリカの現代演劇と詩,
⑨現代スペイン系アメリカの散文, ⑩アルゼンチン文学,
以上10コースが学部レベル用に開設された。大学院レ
ベルでは, ⑪ポルトガル・ブラジルの文化と文明の研究,
⑫20世紀ブラジルの詩, ⑬ブラジル文学研究, ⑭ラテン
・アメリカの言語, ⑮現代スペイン系アメリカの小説,
⑯現代スペイン系アメリカの詩, ⑰19世紀スペイン系ア
メリカの小説, ⑱19世紀スペイン系アメリカの小説研究,
⑲現代スペイン系アメリカの思想, ⑳スペイン系アメリ
カの文学と言語研究, 以上10コースがあった。

第2に講座数の多い歴史関係では, 学部レベル用に,
①ラテン・アメリカ文明: 1810年まで, ②現代ブラジ
ルの政治・社会史, ③現代ラテン・アメリカ史, ④ラテン
・アメリカ史プロ・ゼミ, ⑤メキシコ近代史, ⑥ラテン
・アメリカ社会・文化史, の以上6コースが開設された。
大学院レベルでは, ⑦アメリカの対LA外交史研究, ⑧
メキシコ史 (1821—54) 演習, ⑨ラテン・アメリカ史演
習 (計量歴史学), ⑩ラテン・アメリカ史演習 (理論),
⑪19—20世紀アルゼンチン史研究, ⑫ラテン・アメリカ
史研究 (古文書学), ⑬19世紀ブラジル史, ⑭ラテン・ア
メリカ史研究指導, 以上8コースが開設された。

第3に講座数の多い政治では, ①ラテン・アメリカ政

治入門, ②アルゼンチン・ブラジル, ペルーの政治, ③
ラテン・アメリカの政治, ④ラテン・アメリカの政治講
読, ⑤ラテン・アメリカ開発の政治学, 以上5コースが
学部レベル用に, 大学院レベルでは, ⑥ラテン・アメリ
カ都市の政治学, ⑦ラテン・アメリカの政治——講読ゼ
ミ, ⑧ラテン・アメリカ行政比較研究, ⑨ラテン・アメ
リカの政治研究指導, 以上4コースが開設された。

以上, 上位三つの分野のほか, 比較的多くの講座が
開かれている分野は, 人類学6コース, 経済学5コース
であるが, 各分野を比較してみると, 上位少数の学科を
除けば, 充実した存在であるとは言いがたいことがわか
る。なお, UTのスペイン科およびポルトガル科は, も
ちろん初級から上級語学のコースをも担当しているが,
先にみたように ILAS が LA 研究のコースとして認める
のは文学および文化関係である。UTのこの部門は, 全
米の大学の中でもトップ・レベルに入れられており, 規
模, 内容ともに充実している。UTの歴史学部は全体的
には評価されていない部門であるが, ラテン・アメリカ
史に関する限り, 全米の有力センターになっている。教
授陣から判断すれば全米大学の中でも最も魅力のある
LA史研究センターとなっているのは事実であろう。メ
キシコ史の Stanley R. Ross, Nettie Lee Benson, アル
ゼンチン史の Thomas McGann, ブラジル史の Richard
Graham 各教授はその分野で第一人者として広く知られ
ており, その名を慕って各地からUTに学生が集まって
くる。このほか毎学期数人の有力な客員教授がアメリカ
国内のみならずLA諸国その他から招聘されてUTで講
座を担当している。私が在学していた期間だけでも, 歴史
関係ではメキシコ史学界の巨匠 Daniel Cosío Villegas
が, 若手では Eduardo Blanquel, Josefina Vasques de
Knaut らが講座を担当したし, またスウェーデンの
Magnus Mörnas 教授やドイツの Friedrich Katz 教授
がセミナーを担当した。

III 入 学 と 学 位

ILAS は先に述べたように B. A., M. A., Ph. D. の学
位を授与するが, その中心は M. A. である。日本から留学
する場合も, まず M. A. から始めるのが普通と思われる
ので, M. A. と Ph. D. について紹介しよう。

ILASのM. A. コース(ラテン・アメリカ研究修士課程)
に入学するには, UTの大学院一般の入学許可を得るほ
か, ILAS 独自の条件を満たさなければならない。大学
院一般の入学は, 州立大学ならどこでも同じようなもの

で、学部が成績が平均B以上、共通試験 GRE (Graduate Record Examination) の得点1100点以上のほか、しかるべき推薦状があれば入学できる。ILAS に籍をおくためには、これだけでは仮入学にしかならず、正式の学生になるためには、M.A.コースの第1学期目にスペイン語かポルトガル語の試験にパスしなければならない。この Foreign Language Requirement は、スペイン語の場合、英→西、西→英訳の筆記試験と会話の三つが課され、合格点はB以上となっている。

M.A. の学位を取得するためには、ILAS の場合三つの方法があり、Plan A, Plan B, Plan C と呼ばれ(1974年9月現在), A B C のいずれかの方法によって合計11科目(33単位)をとらなければならない。この中の1科目は ILAS 独自のコースで、interdisciplinary course と称され、pass-fail basis(A, B, C, F の成績がつくのではなく合格か不合格かの2種類だけの成績のつけ方)の成績で単位をとる。Plan A, B, C の違いはどの分野を専攻するかにより、次のような方法で修士号を取得する。

Plan A: LA 研究の第1専攻分野(major discipline)で15単位(5コース)、第2専攻分野(minor discipline)で9単位(3コース)をとり、第1専攻分野で修士論文を書く。

Plan B: 三つの分野で各々6単位(2コース)ずつとり、そのうち二つの分野で research paper を書く。残りの12単位(4コース)は、各自の選択でとる。

Plan C: 第1専攻分野で12単位(4コース)、第2専攻分野で9単位(3コース)とり、このほか9単位を方法論(methodology)でとり、二つの分野(第1と第2専攻分野)で research paper を書く。

修士論文(Plan A)の場合、たとえばラテン・アメリカ史を第1専攻とするなら、120~150枚(double-space typewritten)の論文が標準的である。Research Paper は分野にもよるが、50~70枚の小論文。Term-paper と呼ばれるセミナーで学期末に提出するものが25~40枚であるから、いずれの課程をとろうとそれほど負担になるものではない。

ILAS の Ph. D. コースは前にも触れたように特殊な場合にのみ許可される。たとえば、国務省の LA スペシャリストとか Library Science で修士課程を終了した者がさらに LA 地域を専門にしたい場合で、いわゆる教職(大学)に就く者は専門の学部(Departments)に所属するのが普通である。これは UT の LA 研究の特色でなくアメリカの地域研究がほぼこのような制度になっている。

で、より高度の専門家を養成する仕組みになっている。こうした事情のほかに ILAS で Ph. D. を得る場合、必須コースが他の学部の2倍あり、負担が重く、現実きわめて特殊な人にしか向かないようである。

この Ph. D. コースを簡単にみてみると、まず二つの専攻分野を決め、各々の専門学部の Ph. D. コースを終了しなければならない。Ph. D. candidate になるためには、この後 ILAS および二つの分野の専門教授からなる Supervisory Committee の課す筆記および口述試験に合格し、かつ二つの外国語(スペイン語とポルトガル語)の試験に合格しなければならない。論文は第1専攻分野で書く。このように ILAS の Ph. D. のコース・ワークは他の学部でとる場合の2倍である。たとえば私が選んだラテン・アメリカ史専攻の場合、歴史学部が課す条件は次のようである。コース・ワーク30単位(10コース)、そのうち必須はラテン・アメリカ史リーディング・セミナーを3コース、リサーチ・セミナーを3コース、この他6単位(2コース)を supporting field (たとえばラテン・アメリカ政治)からとる。このコース・ワークが終了し、Ph. D. candidate になるためには、指導教育をはじめ歴史学部大学院の教授会で成績が検討され審査される。この審査にパスすると次に資格試験(Qualifying Examination)を受けることができ、LA 史専攻の者は、LA の植民地時代史(Colonial History)と LA 2カ国ないし二つの地域の National Period と呼ばれる独立以降の歴史を専門分野とし合計三つの試験と、第2専攻部門で二つの試験(たとえばスペイン中世史とかアメリカ外交史など選択自由)を受けなければならない。晴れてこの試験に合格し、あと二つの外国語(LA 史専攻の場合スペイン語とポルトガル語)の試験に合格すれば、いわゆる Ph. D. candidate となり、あとは論文を書き、Defence と称する論文内容審査面接試験があってこれに合格して Ph. D. の学位を取得するわけである。

IV ラテン・アメリカ研究図書館

UT のラテン・アメリカ研究図書館(Latin American Collection)とは、LA 研究専門の図書館である。1971年に完成した Sid W. Richardson Hall と名づけられた南北に長い近代的大館の南側3分の1を、ILAS および Center for Mexican Studies とともに占領している。蔵書約25万冊(1974年現在)、マイクロ・フィルム約5000巻、新聞、地図などのほか、膨大なマニエスクリプトを

収集しており、アメリカでも指折りのLA研究専門の図書館となっている。基本方針として言語の区別なくLA関係の書籍文献を集めているが、ここの長所はメキシコ関係が非常に良く集められているという点である。特にメキシコ19世紀の貴重な文献(Mariano Riva Palacio, Valentín Gómez Farías, Lucas Alamán 関係文書)はここにあり、その他を含めて全般的にUTのラテン・アメリカ研究図書館はメキシコの歴史学者にとっても魅力のある図書館の一つとなっている。図書館の2階には大学院生とFaculty members専用のキャレルがあり、修士課程の学生用に136の机が、また博士課程の学生用に36の机が準備されている。通常学期中は日曜を除く毎日朝9時から夜10時まで開館されており、利用するには便利である。

V アメリカの大学におけるLA研究

アメリカの各大学が競ってLA研究を拡大させたのは1960年代になってからである。ニクソン副大統領のLA訪問と反米感情の爆発、キューバ革命などにより、アメリカがそのLA政策の再検討を迫られ、その結果にわかにLA諸国への関心が高まったときである。1962年NDEA(National Defence Education Act)の予算によって5大学——Univ. of California at Los Angeles(UCLA), Colombia Univ., Univ. of Florida, Univ. of Wisconsin, Univ. of Texas(UT)——にLatin American Language and Area Programが設置され、それぞれのセンターにNDEA奨学金制度が実施されると、各大学は従来のLA研究プログラムを大幅に再編成した。1962年の5大学は、1965年には16大学に拡大され、LA研究に一種のブームが到来したのが1960年代であった。しかし、上記のようにLA研究がアメリカ政府の対LA政策に密着したものであっただけに、LA研究への関心の推移も激しく、ニクソン大統領時代に入るとLA熱は徐々にさめていった。もっとも、1960年代の熱狂的なブームが連邦政府の大きな資金による裏づけによったものであっただけに、アメリカ各大学のLA研究の地盤は大幅に改良され、ブームが下火になった現在でも私が入学した1969年とは比較にならないほど充実しているのも事実である。

アメリカのLA研究は、特に総合的な地域研究としてのLA研究はその歴史も浅いため、古い伝統を誇る大学ではあまりさかんではないといえる。また学問としても、決して一流の頭脳を集めるようなはなやかな分野でもな

い。先にあげた5大学もコロンビアを除けば州立大学であることなどは、古い歴史のある東洋研究がハーバード大学に存在するのとは対照的である。

アメリカの平均的な大学なら、どこでもLA関係のコースがあり、いくつかのLA専門コースをとることができるが、大学院修士課程のレベルでLA研究を地域研究として専攻する場合にはあまり大学の選択には余地がないように思える。アメリカの大学院レベルで研究する場合の大学の選び方は、多くのLA関係コースがあるかどうかと、自分の専攻したい分野に良い教授がいるかどうかに要約されよう。修士コースの場合には、指導を受けたいある特定の先生がいるからというより、講座数が多くLA研究センターとしての規模そのものが大きいことが重要である。したがって有力なLA研究センターをもつ大学に入学するのが普通といえよう。一方、博士課程となると事情が異なり、修士とは逆にLA研究センターの規模よりも自分の専攻する分野の先生がいるかどうかが決定的な要素となる。

以上のように、どのレベルに進むかによって選ぶべき大学が決められるが、そのほか、大学によってLA地域の専門化が進んでいることも注意しなければならない。比較的大きなLA研究センターでも各々特色があり、たとえばコロンビアはブラジル研究がよく、コーネルはペルー、UTはメキシコといった専門地域を持っていて、講座数はもちろんのこと、図書館の資料もその傾向にそっているといつてよい。というのは、UTのようにLA研究では指折りのセンターであっても、事實は、LA全城をカバーするわけではなく、私が留学していた期間には、大学院レベルでは、カリブ海地域、中米、アンデス地域といった分野においては少なくとも歴史関係では全くコースがなかったのである。これは、その地域の専門家がいなかったことはもちろん、研究全般において不利な地域となっていた。その反面、メキシコに関しては歴史だけでも3人の専任教授がおり実に恵まれた存在であった。以上のような事情を知った上で、日本から留学する場合、留学先を決定することは重要であろう。

(東京外国語大学非常勤講師)